

(第二課題)

# イギリスの地方都市ニューベリーの バイパス道路について

都市プラン研究所 村上 睦夫\*

## 1. はじめに

Newbury(ニューベリー)はイギリスの首都ロンドンから西に約80km離れた、パークシャー州にある人口約27000人の小さな地方都市に過ぎないが、イギリス中心部の工業都市バーミンガムから、大学都市オックスフォードを経て南部のサザンプトン港を結ぶ幹線道路が町の中心部を貫通しており、かつ町の中心部のみ一部片側一車線と狭隘であったため、混雑が激しく、戦後永い間バイパス道路が構想され、その是非、及び通過経路等が議論され、過去に例を見ないような内外の激しい反対運動を経て1998.11に完成を見た。

## 2. 研究の意義

このバイパス道路はイギリスにおける道路計画、交通計画に対する考え方を根元的に変革したと言われている。すなわち、

- ・道路交通削減法の制定
- ・道路整備計画の大幅な廃棄、棚上げ
- ・自然との共生を取り入れた整備計画
- ・合意形成のあり方

等である。このような道路計画における基本的な考え方、及びその経緯を研究することは我が国の道路整備のみでなく、種々の施設整備計画策定作業において大いに参考になると考えられる。

## 3. 研究方針

本研究テーマで提起されている課題は以下の3点であると考えられる。

- ①交通政策の基となる理念
- ②道路交通政策の基本的な考え方
- ③道路整備に際しての留意点

①については、増え続ける自動車交通に対してどのように考え、対処すればよいかとい

うことを明らかにしたい。

②については、

- ・公共交通機関との分担のあり方と道路の位置づけ
- ・森林や野生生物といった自然と共生するミティゲーションの考え方の整理
- ・町の活性化と道路の配置(貫通型かバイパス型か)、広域交通と地区交通のあり方
- ・需要の顕在化を招かない道路整備水準

等を明らかにしたい。

③については、筆者の考えるところどうもどこかでボタンの掛け違いのようなことがあったのではないかと類推している。なぜならば、事業認可されているにもかかわらず大きな反対運動があったこと、地元の新聞を読むとバイパス道路の供用後は大きな反対運動が展開されていないこと等による。

現地でのヒアリング調査に重点を置いて、以下の手順で調査を進める。

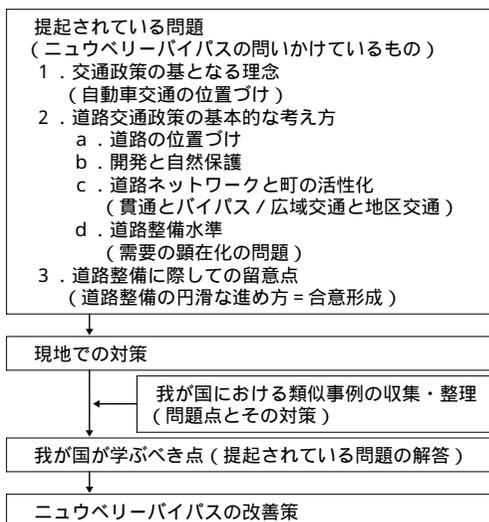


図 調査フロー

\* むらかみ むつお(都市プラン研究所 代表)